

**横浜市指定管理者第三者評価**

**横浜こども科学館**

# **評価シート**

**横浜こども科学館指定管理者選定評価委員会**

# 目次

1. 総評 .....	3
2. 基本方針 .....	5
(1) 施設管理運営の基本的な考え方 .....	5
(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針 .....	7
3. 事業計画 .....	9
(1) 事業実施に関する基本的な考え方 .....	9
(2) 計画的な事業展開について .....	11
(3) 利用者サービス向上について .....	15
(4) 地域や他機関等との連携・協働について .....	17
4. 管理運営 .....	19
(1) 運営体制に関する基本的な考え方について .....	19
(2) 収支計画について .....	21
(3) 施設の維持管理について .....	23
(4) モニタリングの実施について .....	25

## <評価の考え方>

- A: 提案書以上の成果を挙げている
- B: 提案書どおりの成果を挙げている
- C: 提案書の成果が挙がっていない

## 1. 総評

指定管理者記入欄	選定評価委員会記入欄
<p><b>【取組事項等】</b>            指定管理 2 期目の基本方針である「みつける科学館」「つなぐ科学館」「あつまる科学館」を旗印に掲げ日本一の政令指定都市「横浜」ふさわしい日本一の科学館をめざし事業及び運営を行いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みつける科学館」として                子どもたちに科学での三の心・センスとして「知りたい心」（好奇心）「挑みたい心」（冒険心）「創りたい心」（匠の心）の萌芽を発見する機会を提供しました。</li> <li>・「つなぐ科学館」として                「子ども」と「科学」をキーワードの中核に据えて、家族・家庭と学校・地域に日常的なつながりを創りあげるようにしました。</li> <li>・「あつまる科学館」として                横浜市の地域の力、学校の力、家庭の力によって未来から預かった大切な子どもたちを育てる恵まれた環境が科学館には結集しています。それらの横浜の街づくりの力が「あつまる場」場として機能するようにしました。</li> </ul> <p>その結果として、平成 29 年度の入館者数は、過去最高の 323,382 人を達成、宇宙劇場（プラネタリウム）の平成 29 年度の入場者数は、168,823 人（過去 3 番目の入場者数）となりました。            科学に関する体験講座や教室の平成 29 年度の開催回数は、1,069 回、参加人数は、17,247 人となりました。いずれも過去最高の回数及び人数となりました。            今後の指定管理期間 3 年を含め、計 5 年間において入館者数 1,600,000 人、入場者数（プラネタリウム）902,000 人、科学に関する体験講座や教室の開催については、開催回数 5,200 回、参加人数 89,000 人の達成をめざします。</p>	<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指定管理 1 期目の経験と反省を踏まえ、今期指定管理期間においては、明確に目標を定め、この実現に向って具体的な動きを取っていくことが心がけられており、同じ事の繰り返しではなく、着実なステップアップが図られています。</li> <li>・展示解説の見直し、ミュージアムショップのリニューアル、休館日の変更、夏季の発券機の 1 台増設による待ち時間の短縮といった、入館者にとって快適な環境の整備を進めるとともに、照明の LED 化による光熱費のコストダウンを図るなど、民間の機動力を発揮した施設運営が行われています。</li> <li>・指定管理者のネットワーク力を活かし、専門の研究機関や団体との意見交換を行うなど、事業の質を高める努力が払われているとともに、地域の教育関係者からの意見を聞くなど、地域内のニーズ把握を通じた科学館が担える役割の掘り起こしにも取り組むなど、施設内部にとどまらず、広い視野から事業のあり方の検討が図られています。</li> <li>・最初の 2 年間は、目標値に達していない指標や組織体制の不備も見られましたが、3 年目からは改善がなされ、成果も現れています。中期的にみれば取組方針は順調と言えます。後半の事業に期待します。</li> <li>・平成 29 年度の入館者数が過去最高の 323,382 人を達成したことは、指定管理者の努力の賜物と評価したいと思います。その中でプラネタリウムの入場者数が色々な理由があり目標を下回りましたが、新年度に入り回復傾向にあり、5 年間での目標は達成可能であると思われます。しかし、必ずしも数値にこだわるだけでなく、提案書にある「みつける」「つなぐ」「あつまる」という科学館を目指した質の高いプログラムを提供していただきたいと思っています。</li> </ul>

## 【改善に向けた提案・意見】

・平成 29 年度におけるプラネタリウム入場者数、科学に関する体験講座や教室の開催における参加人数が目標値を下回っている中で、高めに掲げた目標値を達成することに力点を置くあまり、事業内容に無理が生じることはないよう、現実的に達成可能な数値を見据えながら、これまで通り「質」の充実も大切にしていくことが望まれます。

・これまでの 2 年度間において、離職者の発生で運営体制が不安定になった時期が見られます。現在は新卒採用などにより常勤職員の増加が図られていますが、これら貴重な人材の定着化に向けて「金銭的報酬＋非金銭的報酬（力の発揮できる場、やりがい）」を通じたモチベーションの維持などを心がけてください。併せて、固定的に関わってもらいやすい地元人材の発掘にも努め、色々な立場の人が連携・協力して、安定的な運営を支える仕組みの構築なども検討していくことが求められます。

・施設管理から職員のやりがいを引き出す工夫など、管理運営努力をしていることは伝わってきますが、どんな科学館を目指すのか、誰にどんなメッセージを伝えたいのかを明確にして、目標及び事業計画を見直してほしいと思います。

・「つなぐ科学館」を是非実現してください。独りよがりにならず、他の科学館や他機関との連携をよりいっそう進め、職員一人ひとりの創造性を引き出し、ほかにはない横浜らしい科学館を目指してください。

・2 期目の基本方針は、「みつける」「つなぐ」「あつまる」を掲げて、力点を置く部分を明確にした成果が中間段階でもあるように思います。今さらですが、「あつまる」という表現について、「みつける」「つなぐ」は結果表現になっており、指定管理者の基本方針としてこうしたいという意味が入った「あつめる」が正しいと感じました。そうした考え方で後半の取組を進めていただければと思います。

・横浜こども科学館は、日本の市立科学館として見本となる事業を展開してきた実績を有している科学館です。誇り高き精鋭としての価値を発信できる事業展開を期待しています。

## 2. 基本方針

### (1) 施設管理運営の基本的な考え方 (様式7)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)		
ア	役割、課題に対する考え方	A	B	C	A	B	C
	横浜市の青少年育成施策の現状や課題を踏まえ、提案書で示す当該施設の役割を果たしている						
イ	管理運営に関する考え方	A	B	C	A	B	C
	管理運営基本方針に沿って、施設が管理運営されている						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄			
<p><b>【評価の根拠】</b></p> <p>ア. 役割、課題に対する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年を取り巻く状況と課題への取組 地域と連携したイベント、教室等の開催 親子参加のイベント、教室等の開催</li> <li>引きこもり等様々な困難に直面している青少年等への取組</li> <li>磯子区 NPO 法人 K2 インターナショナルが運営するパン屋のおやじ (自立支援事業) のパンを科学館カフェで販売</li> <li>就労支援 B 型事業所フェロップに夏休み工作キットの袋詰め作業を発注</li> </ul> <p>イ. 管理運営に関する考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「みつける・つなぐ・あつまる」科学館の大方針に基づきイベント、教室、企画展等、地域及び教育委員会との連携事業、ボランティア活動の支援を行いました。</li> </ul>				<p><b>【現状の評価】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年を取り巻く現状と課題をとらえた上で、横浜市の青少年施策に沿った施設の管理運営が行われています。</li> <li>指定管理者に求められている要求水準を満たすだけでなく、地域との連携や他の青少年支援団体との連携により、多様な機能が発揮されており、また宇宙や科学に関し「本物志向」の提供が心がけられています。</li> <li>3つの基本方針に基づき、各種教室、時代状況に対応した企画展、様々なボランティア活動の支援、関連団体との連携が図られ、着実に成果があがっているのは評価に値します。さらには、引きこもり等の青少年が関わることにも取り組み、社会課題の解決につながる取組に一步を踏み出したことは特筆に値します。</li> <li>ボランティアの活動スペースができたことによって、コンテンツの開発が推進され、科学館活動が拡充できたことは高く評価します。</li> <li>はまぎんキッズ・サイエンスの内容は、小学生にとってはかなり高度であるが、親子で参加し質問も的確であり、子どもの将来性が大きく期待されます。指定管理者が始めたコスモカフェの効果が、引きこもり対策事業など多岐に渡っていることも評価できます。地域をはじめ広くボランティアを募集し、その活動が施設の魅力アップにも繋がっています。</li> </ul>			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「みつける・つなぐ・あつまる」科学館の大方針に基づき、運営を質、量ともに強化します。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学館の強みを活かし、他団体との連携を深めていくことを期待します。例えば、ひきこもり等の困難に直面している青少年支援団体との連携において、就労体験の一環として科学館に若者をインターンシップ等で積極的に受け入れてください。また、興味・関心を持った人を団体との協力の下で少しずつ運営に関わらせ、社会参加への足がかりを提供していくといったことなども考えられるのではないのでしょうか。</li> <li>・「みつける・つなぐ・あつまる」科学館の考え方を大切にしながら、中間的機能を持つ「出て行く科学館」という取組もよいと思います。そのためには、全分野をカバーできるような科学館になることも求められます。</li> </ul>
---	--

(2) 施設管理運営の5年間の目標と計画方針 (様式8)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																																																																		
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																																																																		
ア	目標について	A	B	C	A	B	C																																																																
	指定期間の達成目標に対し、順調に進んでいる																																																																						
イ	計画方針について	A	B	C	A	B	C																																																																
	計画方針に沿って、施設が管理運営されている																																																																						
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																																																			
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 目標について</p> <p>・入館者数 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>310,000</td> <td>306,567</td> <td>-3,433</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>315,000</td> <td>323,382</td> <td>8,382</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>625,000</td> <td>629,949</td> <td>4,949</td> </tr> </tbody> </table> <p>・入場者数 (プラネタリウム) 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年</td> <td>175,000</td> <td>155,074</td> <td>-19,926</td> </tr> <tr> <td>2017年</td> <td>178,000</td> <td>168,823</td> <td>-9,177</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>353,000</td> <td>323,897</td> <td>-29,103</td> </tr> </tbody> </table> <p>*2016年7/4～16 13日間休場(全天周映像機器更新) *2017年4/5～14 10日間休場(プラネタリウムメンテナンス)</p> <p>・科学に関する体験講座や教室の開催 開催回数 単位：回</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>800</td> <td>790</td> <td>-10</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>1,100</td> <td>1,069</td> <td>-31</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,900</td> <td>1,859</td> <td>-41</td> </tr> </tbody> </table> <p>参加人数 単位：人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>目標</th> <th>実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016年度</td> <td>13,000</td> <td>14,277</td> <td>1,277</td> </tr> <tr> <td>2017年度</td> <td>19,000</td> <td>17,247</td> <td>-1,753</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>32,000</td> <td>31,524</td> <td>-476</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 計画方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4Fは、「宇宙研究室」B2F「遊びの広場」としフロアの改修を行いました。</li> <li>・リニューアル展示物(5F宇宙線、4F無限トンネル握手ミラー、光のハーブ)</li> <li>・新展示物(4F T3マグネットパズル、テセレーション万華鏡)</li> <li>・展示物の解説サインの見直しを行いました。</li> </ul>				年度	目標	実績	増減	2016年度	310,000	306,567	-3,433	2017年度	315,000	323,382	8,382	計	625,000	629,949	4,949	年度	目標	実績	増減	2016年	175,000	155,074	-19,926	2017年	178,000	168,823	-9,177	計	353,000	323,897	-29,103	年度	目標	実績	増減	2016年度	800	790	-10	2017年度	1,100	1,069	-31	計	1,900	1,859	-41	年度	目標	実績	増減	2016年度	13,000	14,277	1,277	2017年度	19,000	17,247	-1,753	計	32,000	31,524	-476	<p>【現状の評価】</p> <p>・入館者数は、平成28年度は目標値を下回りましたが、29年度は大きく上回りました。一方、プラネタリウム入場者数は、平成28年度、29年度ともに目標値を下回る結果となっています。科学に関する体験講座や教室の開催については、参加人数が平成28年度は目標値を上回りましたが、29年度は下回るなど、いずれの目標値についても、順調に達成されている状況にはありません。</p> <p>・しかしながら、30年度に入ってから、多様な取組を行うことによって目標も到達できそうであるため、中期的に見れば、順調と判断して、CではなくB評価とします。</p> <p>・今後、最終年度の33万人の達成に向けて、どう着実に目標達成を図るかの戦略を立てて臨む必要があります。</p> <p>・提案書に掲げられた計画方針に沿って、ソフト・ハード両面を充実させる計画が着実に進められており、来館者が館内で快適に充実した時間を過ごせる環境が整えられています。</p>			
年度	目標	実績	増減																																																																				
2016年度	310,000	306,567	-3,433																																																																				
2017年度	315,000	323,382	8,382																																																																				
計	625,000	629,949	4,949																																																																				
年度	目標	実績	増減																																																																				
2016年	175,000	155,074	-19,926																																																																				
2017年	178,000	168,823	-9,177																																																																				
計	353,000	323,897	-29,103																																																																				
年度	目標	実績	増減																																																																				
2016年度	800	790	-10																																																																				
2017年度	1,100	1,069	-31																																																																				
計	1,900	1,859	-41																																																																				
年度	目標	実績	増減																																																																				
2016年度	13,000	14,277	1,277																																																																				
2017年度	19,000	17,247	-1,753																																																																				
計	32,000	31,524	-476																																																																				

<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォメーションまわりのリニューアルを行いました。</li> <li>・団体休憩室、休憩コーナーのリニューアル及び椅子、テーブルを更新しました。</li> <li>・特別企画展 実施テーマ</li> </ul> <table border="1" data-bbox="204 376 826 568"> <thead> <tr> <th>期間</th> <th>2016 年度</th> <th>2017 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>GW</td> <td>テレVISION展</td> <td>大魚一展</td> </tr> <tr> <td>夏休み</td> <td>自由研究</td> <td>自由研究</td> </tr> <tr> <td>冬休み</td> <td>南極</td> <td>プログラミング</td> </tr> <tr> <td>春休み</td> <td>プログラミング</td> <td>スライム</td> </tr> </tbody> </table>	期間	2016 年度	2017 年度	GW	テレVISION展	大魚一展	夏休み	自由研究	自由研究	冬休み	南極	プログラミング	春休み	プログラミング	スライム	
期間	2016 年度	2017 年度														
GW	テレVISION展	大魚一展														
夏休み	自由研究	自由研究														
冬休み	南極	プログラミング														
春休み	プログラミング	スライム														
<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年度以降の目標の達成</li> <li>・1月の開館日の変更 1/4 開館を 1/2 に変更 (2018 年 1 月より実施済み)</li> <li>・休館日の変更 原則毎月第 1、3 月を第 1、3 火に変更 (2018 年 4 月より実施済み)</li> <li>・指定管理期間 (5 年) において 入館者数 1,600,000 人、入場者数(プラネ)902,000 人を達成</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提案書に記載された数値目標の設定に課題があるのではないのでしょうか。審査する側も科学館の施設管理運営の考え方を一步前に進めていかなければなりません。目標と実績との関係から見れば、量的に実績が出ていないところがあります。今後は、目標を数字的に伸ばすことだけを考えるのではなく、その背景をきちんと捉え、質的改善を図っていくことが必要であると考えます。そういう意味では、天候に左右されずに来館者を確保することは「行きたい科学館」が実現できてきているということにつながりますので、これまでの来館者数の平準化こそが、管理運営の基本であると考えます。</li> <li>・来館者アンケート調査結果を見ると、2 階の実験室や多目的室を知らない人の割合が半数近くを占めています。また、平成 29 年度の春休み特別企画「大スライム展」に 56,000 人余りの参加者を集客するなど、科学館のリピーター利用者となり得る潜在的な層が存在することから、これらの人への館内実施事業の告知を強め、再来館率の向上を図っていくことが期待されます。</li> <li>・老朽化した施設の更新という命題を抱えているため、修繕に伴う入館者数の一時的な減少の回復に全力を尽くしていくことを期待します。</li> </ul>															



### 3. 事業計画

#### (1) 事業実施に関する基本的な考え方 (様式9)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																																															
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																																															
科学体験の普及・振興のための考え方や方針について	事業計画に基づき、科学体験の普及・振興、科学に関する専門知識や最新の情報取得に取り組んでいる	A	B	C	A	B	C																																													
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																																
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 科学体験の普及・振興のための考え方や方針について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学に関する専門知識や最新情報イベントの開催 はまぎん キッズ・サイエンス</li> </ul> <p>2016 年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>太陽系</td> <td>6</td> <td>1,446</td> </tr> </tbody> </table> <p>2017 年度</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>極小極大の宇宙</td> <td>6</td> <td>1,762</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学に関する体験講座や教室等の開催 洋光台サイエンスクラブ</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>185</td> <td>4,703</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>262</td> <td>6,092</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>出前教室の開催</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>開催回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>44</td> <td>2,188</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>46</td> <td>2,545</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>プラネタリウムを使用したイベント 青春プラネタリウム (高校生による)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加校</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>5</td> <td>578</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>6</td> <td>646</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>メディアとの連携 (TV、新聞、ラジオ)</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016 年度</th> <th>2017 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>71</td> <td>66</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 科学に関する専門知識や最新情報取得のための具体策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海洋研究開発機構 (JAMSTEC) …研究所見学 2016 年 12/27 開催「JAMSTEC 海洋研究開発機構 横浜研究所へ行ってみよう！」</li> <li>日本航空 (JAL) …工場見学</li> </ul>				テーマ	開催回数	参加人数	太陽系	6	1,446	テーマ	開催回数	参加人数	極小極大の宇宙	6	1,762	年度	開催回数	参加人数	2016	185	4,703	2017	262	6,092	年度	開催回数	参加人数	2016	44	2,188	2017	46	2,545	年度	参加校	参加者数	2016	5	578	2017	6	646		2016 年度	2017 年度	回数	71	66	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>科学体験の普及・振興のために、JAXA や横浜銀行などとの連携の下で、専門知識や最新情報を提供するイベントを開催するなど、「本物志向」の事業展開が目指されています。</li> <li>洋光台サイエンスクラブにおける体験講座や教室開催などの館内実施事業にとどまらず、市内小学校への出前教室の開催により、地域の幅広い子どもの層に、科学に触れる機会が提供されている点を高く評価します。横浜市は市域が広いと、科学館に来館できない学校も多いことから、今後も継続実施してください。</li> <li>洋光台サイエンスクラブや出前教室などで、年会費の無料化、会員募集のチラシ配布、先生方の口コミ等により、参加人数が大幅に増えており、裾野が大幅に拡大しつつあるのは大きな成果です。</li> <li>それぞれのイベントの参加人数が増えてきているのは、指定管理者の考え方が事業運営に浸透していているからだろうと思われます。</li> <li>提案書に名前が記載されている「海洋研究開発機構」と連携関係が構築され、専門知識や最新の情報取得への取組が図られています。</li> </ul>			
テーマ	開催回数	参加人数																																																		
太陽系	6	1,446																																																		
テーマ	開催回数	参加人数																																																		
極小極大の宇宙	6	1,762																																																		
年度	開催回数	参加人数																																																		
2016	185	4,703																																																		
2017	262	6,092																																																		
年度	開催回数	参加人数																																																		
2016	44	2,188																																																		
2017	46	2,545																																																		
年度	参加校	参加者数																																																		
2016	5	578																																																		
2017	6	646																																																		
	2016 年度	2017 年度																																																		
回数	71	66																																																		

<p>2017 年 1/7 開催「JAL 日本航空 (株) SKY MUSEUM へ行ってみよう！」</p>	
<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代を先取りしたイベントを開催します。</li> <li>・科学に関する体験講座や教室等の開催数を増やします。</li> <li>・科学に関する専門知識や最新情報取得のためのネットワークを増やし講座の開催数を増やします。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学に触れる「入り口」と、関心を持った層の「深堀り」の両面への対応を図っていくことが必要と考えられます。提案書に記載された科学に関する体験講座や教室等についての「階級（基礎、中級、上級）の充実」の検討、実施が期待されます。</li> <li>・時代が求めるテーマのイベントや体験講座について工夫をさらに進めるとともに、様々な教室の開催数増が人件費の増に直結し、経営を圧迫することがないように仕組みやバランスをとったマネジメントが必要になるのではないのでしょうか。</li> <li>・2020 年に小学校でプログラミング教育が導入されるなど、科学や情報技術分野の重要性の高まりについて、親の意識啓発にも努めることで、親子での来館促進につなげていくことなども検討の余地があると考えられます。</li> <li>・春休み、GW、夏休み、冬休みの企画展について継続実施していくとのことですが、人気があったから同じに取り組むでは人はついてきません。時代と社会は動いています。絶えず新しい発想で、あっと驚く創造的な企画展を実施してください。</li> <li>・シルバー人材の活用を図る、ボランティアによる「手作り工作キット」はすばらしい！シルバー人材のやる気を引き出し、生きがいとなるよう活躍できる場を広げていってください。</li> </ul>

(2) 計画的な事業展開について (様式 10)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																																						
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																																						
ア	指定事業の実施計画について	A	B	C	A	B	C																																				
	利用者ニーズ、地域や施設の特徴を踏まえ、指定事業の実施に取り組んでいる																																										
イ	自主事業計画の実施計画について	A	B	C	A	B	C																																				
	自主事業の目的と効果を明確にし、計画的に取り組んでいる																																										
ウ	改修後の2階フロアの有効活用について	A	B	C	A	B	C																																				
	施設の魅力や利用者サービスの向上につながる取り組みを行っている																																										
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																							
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 指定事業の実施計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>常設展示                     <ul style="list-style-type: none"> <li>リニューアル展示物の設置</li> <li>5F 宇宙線</li> <li>4F 無限トンネル、握手ミラー、光のハープ</li> </ul> </li> <li>新展示物の設置</li> <li>4F 二項分布パチンコ、パラボラアンテナ、サイクロイド滑り台</li> <li>B2F プレイハウス、ペンローズ・タイル</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>展示解説の見直し</li> <li>企画展 (特別企画展)</li> </ul> <p>春休み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>企画展名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>おためしワークショップフェア</td> <td>21,660</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>大スライム展</td> <td>56,923</td> </tr> </tbody> </table> <p>GW</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>企画展名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>テセレーション展</td> <td>16,415</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>びっくり、大魚一展</td> <td>11,213</td> </tr> </tbody> </table> <p>夏休み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>企画展名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>自由研究パラダイス2016</td> <td>70,844</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>自由研究ワークショップ</td> <td>70,139</td> </tr> </tbody> </table> <p>冬休み</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>企画展名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>南極ってどんなところ?</td> <td>20,821</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>めざせプログラミングマスター</td> <td>10,859</td> </tr> </tbody> </table>				年度	企画展名	参加人数	2016	おためしワークショップフェア	21,660	2017	大スライム展	56,923	年度	企画展名	参加人数	2016	テセレーション展	16,415	2017	びっくり、大魚一展	11,213	年度	企画展名	参加人数	2016	自由研究パラダイス2016	70,844	2017	自由研究ワークショップ	70,139	年度	企画展名	参加人数	2016	南極ってどんなところ?	20,821	2017	めざせプログラミングマスター	10,859	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定事業については、提案時に提示された項目のすべてについて着実に実施され、展示解説の見直しなどにより、アテンダントスタッフがこれを活用して来館者に解説するようになるなど、成果が得られています。「科学に関する体験講座や教室などの開催」についての開催回数、参加人数という数値目標については、開催回数は平成28年度、29年度ともに未達となったが、参加人数は29年度に目標値を上回り、着実な浸透が見られます。</li> <li>自主事業についても、洋光台サイエンスクラブ、出前教室ともに参加人数が増大しており、洋光台サイエンスクラブについての年会費無料化や市内小学生全児童へのチラシ配布といった取組の効果が表れています。さらに、ミュージアムショップやコスモカフェのリニューアル、商品数・メニュー数の増大により、利用者増と売上増の成果が得られています。</li> <li>2階フロアは、提案書に沿ったリニューアルが実施され、多目的室、実験室として、多数の利用が行われています。しかしながら、来館者の中に、これらスペースの存在を知らない人もまだ多いことから、認知度向上が今後の課題です。</li> <li>企画展の「大スライム展」が大勢の来場者となったのは、来館者のニーズを的確に捉えた結果だろうと思われます。</li> </ul>			
年度	企画展名	参加人数																																									
2016	おためしワークショップフェア	21,660																																									
2017	大スライム展	56,923																																									
年度	企画展名	参加人数																																									
2016	テセレーション展	16,415																																									
2017	びっくり、大魚一展	11,213																																									
年度	企画展名	参加人数																																									
2016	自由研究パラダイス2016	70,844																																									
2017	自由研究ワークショップ	70,139																																									
年度	企画展名	参加人数																																									
2016	南極ってどんなところ?	20,821																																									
2017	めざせプログラミングマスター	10,859																																									

・科学に関する体験講座や教室などの開催

開催回数 単位：回

	2016年度	2017年度
科学工作教室	411	420
PC教室	168	360
洋光台サイエンスクラブ	185	262
星空観察会	26	27
計	790	1,069

・月曜日を開館して火曜日を休館とし、来館者数の増につなげたことは、素晴らしい発想の転換です。これまでも踏襲することなく、今後も改善に努めてください。

参加人数 単位：人

	2016年度	2017年度
科学工作教室	5,505	5,863
PC教室	1,962	3,238
星空観察会	2,107	2,054
計	14,277	17,247

・図書館機能の設置

読み聞かせ教室

年度	実施回数	参加人数
2017	16	350

\*2016年は開催なし

・学校教育機関や他の青少年施設等との連携事業

年度	実施回数	参加人数
2016	32	12,009
2017	45	30,389

・他施設のイベント科学体験プログラムの情報集と提供

施設名	2016年度	2017年度
よこはま動物園ズーラシア	10	6
国立科学博物館	2	1
箱根ジオミュージアム	2	-

イ. 自主事業

・洋光台サイエンスクラブ

	2016年	2018年
会員数	1,020	5,725
教室開催数	185	262
参加人数	4,703	6,092

・イベントの開催（横浜市、横浜銀行、大学、地域、企業との連携）

年度	実施回数	参加人数
2016	23	10,890
2017	35	27,405

・出前教室		
年度	開催回数	参加人数
2016	44	2,188
2017	46	2,545
・ミュージアムショップ		
年度	利用者数	売上【円】
2016	19,418	20,305,515
2017	24,863	25,903,609
＊2017年6月にショップリニューアルを行った。		
・コスモカフェ		
年度	利用者数	売上【円】
2016	20,983	15,198,422
2017	21,891	17,294,966
＊若者支援 NPO が運営する、総菜パン販売を販売商品数、メニュー数（ドリンクメニューを除く）		
年度	ミュージアムショップ	コスモカフェ
2016	224	8
2017	430	13
ウ. 改修後の 2F フロアーの有効活用について		
・ボランティア室を設置		
・多目的室 教室、講座等で利用した。		
・実験室 教室、講座等で利用した。		
多目的室、実験室利用実績		
年度	回数	利用人数
2016	123	3,135
2017	175	4,061

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年5回の特別企画展の充実を図ります。</li> <li>・科学に関する体験講座や教室などの開催件数、参加人数を達成します。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後予定している取組等として、「体験講座や教室などの開催件数、参加人数を達成する」との記載がありますが、「量」と「質」のバランスに留意して事業を進めることが必要と考えられます。例えば、開催数、参加者数の増大に注力する余り、1回の講座・教室の充実度や、参加者へのきめ細かな対応が阻害されるなどの事態は回避しなければなりません。</li> <li>・2階改修の効果として、ボランティア室を設置したことにより、「待つ科学館」から「発信する科学館」に進化しつつあります。今後も「つなぐ科学館」が実現するよう努力を惜しまず、計画的な事業展開に努めてください。</li> <li>・2階改修も成功と言えますが、その成果を数値化するなどして、見える化を図ってください。</li> <li>・春休み、GW、夏休み、冬休みの企画展、科学工作教室、洋光台サイエンスクラブ、星空観察会、読み聞かせ教室などでは、対象の年齢層を設定し、年齢層による興味・関心の違いも反映した企画をしていることもあって、参加者の大幅な増加が図れています。今後も、科学の専門知識や最新情報を取得する場や機会を増やすことで、時代にマッチした新しいテーマややり方等を企画、工夫し、さらなる拡大を進めてほしいと思います。</li> <li>・プログラミング教室など、ニーズに対応したプログラムを整備し、教材などに投資している点は高評価です。今後も、ニーズに答えることができる事業を展開してください。</li> </ul>
--	--

(3) 利用者サービス向上について (様式 11)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																													
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																													
<b>利用者サービス向上のための取組及び広報活動・利用促進について</b> 利用しやすい工夫や館内サービスの向上、利用者ニーズへの対応が図られ、広報活動・利用促進に取り組んでいる		A	B	C	A	B	C																											
指定管理者記入欄		選定評価委員会記入欄																																
<b>【評価の根拠】</b> ア. 利用者サービス向上のための取組及び広報活動・利用促進について ・入館待ち時間の改善 インベント参加券発売ブースを新たに設けました。 午後からの入館促進策を実施しました。 ＊プラネタリウム人気番組投影を 15 時、16 時に投影しました。 ・展示フロアの改修、照明の LED 化、サイン計画及び展示解説の見直しを行いました。 ・ボランティアによる展示解説ツアーを実施した。 ・来館者の声を現場に反映する運営を行いました。 イ. 広報活動・利用促進について ・広報活動 来館者への発信 パンフレット、定期入館券の案内、特別企画展のお知らせ、当日タイムスケジュール表・催事フライヤーをセットにして配布 地域への発信 特別企画展チラシの配布 三浦半島エリア小学校・幼稚園 (2017 年より実施)		<b>【現状の評価】</b> ・展示フロアの改修、展示物の更新等の施設の根幹部分に加え、入館待ち時間の改善、トイレの改修など、来館者が快適に利用できる環境の整備が行われています。 ・広報においては、これまでの横浜市に加え、鎌倉市、逗子市、葉山町、三浦市の教育委員会との連携強化が図られ、企画展等のチラシ配布により、来館者数、プラネタリウム入場者数の増大効果が得られています。チラシの他、会員に向けた情報配信、リニューアルした HP を通じた発信など、多様な媒体を活用し、広域への情報発信が行われています。 ・照明の LED 化、サイン計画及び展示解説の見直しなどで、利用者へのサービスは大幅に向上しつつあります。今後も、チケット売り場窓口の改修、照明の 100%点灯、トイレの洋式化等が予定されており、利用者サービスの向上が期待でき、不断の取組が求められます。 ・ボランティアによる展示解説ツアーなどのアイデアで、着々と利用者のサービス向上に取り組んでいます。また、チラシを広範囲に配布することで、洋光台サイエンスクラブの利用促進にも努めています。																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th>エリア</th> <th>校数</th> <th>枚数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>横浜市(小)</td> <td style="text-align: center;">342</td> <td style="text-align: center;">189,000</td> </tr> <tr> <td>横浜市(幼)</td> <td style="text-align: center;">277</td> <td style="text-align: center;">62,000</td> </tr> <tr> <td>横須賀市</td> <td style="text-align: center;">46</td> <td style="text-align: center;">20,000</td> </tr> <tr> <td>鎌倉市</td> <td style="text-align: center;">16</td> <td style="text-align: center;">8,000</td> </tr> <tr> <td>逗子市</td> <td style="text-align: center;">5</td> <td style="text-align: center;">3,000</td> </tr> <tr> <td>三浦市</td> <td style="text-align: center;">8</td> <td style="text-align: center;">2,000</td> </tr> <tr> <td>葉山町</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">2,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td style="text-align: center;">698</td> <td style="text-align: center;">286,000</td> </tr> </tbody> </table>		エリア	校数	枚数	横浜市(小)	342	189,000	横浜市(幼)	277	62,000	横須賀市	46	20,000	鎌倉市	16	8,000	逗子市	5	3,000	三浦市	8	2,000	葉山町	4	2,000	計	698	286,000						
エリア	校数	枚数																																
横浜市(小)	342	189,000																																
横浜市(幼)	277	62,000																																
横須賀市	46	20,000																																
鎌倉市	16	8,000																																
逗子市	5	3,000																																
三浦市	8	2,000																																
葉山町	4	2,000																																
計	698	286,000																																
＊幼稚園は横浜市のみ ＊2016 年度は横浜市のみ配布 WEB による発信 洋光台サイエンスクラブ会員、定期入館券会員にイベント情報を発信しました。 ・ホームページのリニューアルを行いました。																																		

<p>広報掲載実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016 年度</th> <th>2018 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>件数</td> <td>515</td> <td>494</td> </tr> </tbody> </table> <p>HP アクセス件数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>2, 523, 633</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>2, 604, 150</td> </tr> </tbody> </table> <p>・利用促進活動 横浜銀行とのタイアップ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017 年</td> <td>1, 098</td> </tr> </tbody> </table> <p>* 口座開設キャンペーン</p>		2016 年度	2018 年度	件数	515	494	年度	件数	2016	2, 523, 633	2017	2, 604, 150		人数	2017 年	1, 098	<p>【改善に向けた提案・意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報発信にあたっては、コストパフォーマンスにも留意し、情報を届けたい対象層に有効な媒体を選択して情報伝達を行っていくことも心がけてください。効果検証を行い、各媒体の有効性などを評価することが望ましいです。</li> <li>・ネーミングライツスポンサーである横浜銀行との連携強化においては、口座開設キャンペーンなどに留まらず、横浜銀行の持つ強みを活用した教室開催なども考えられます。子ども向け金融経済教育の重要性が高まってきており、「はまぎんキッズ・サイエンス」として、そうした講座開催なども想定されます。</li> <li>・K2 インターナショナルとの協働によるパンの販売、カフェでの「食育」という発想は、今までの科学館にない発想です。科学館の中にある一つ一つの施設の役割を真剣に考え、今後も創意工夫あふれる利用者サービスの向上に取り組んでください。</li> <li>・「手作り工作キット」などの延長線上にショップがあり、ショップの売り上げが370万円以上になり伸びてきていることや券売機を常時4台あるものに加えて5台目をレンタルしたことは、利用者サービスの視点からすばらしい発想です。</li> </ul>
	2016 年度	2018 年度															
件数	515	494															
年度	件数																
2016	2, 523, 633																
2017	2, 604, 150																
	人数																
2017 年	1, 098																
<p>【今後予定している取組等】</p> <p>ア. さらなる利用者サービスの向上を目指します</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2018 年 6 月、チケット売場窓口改修工事を行い入館待ち時間の改善を図ります。</li> <li>・2018 年度 来館者エリア照明の100%点灯 平日エレベータの1台運休の解除</li> <li>・トイレの改修 女子トイレ 洋式化 7ヶ所 男子トイレ小便器の交換 14ヶ所 *女子トイレはすべて洋式となります。 *男子和式トイレ5ヶ所の洋式化横浜市へ請願中</li> </ul> <p>イ. 広報活動・利用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用しやすいHPをめざし改修を行います。</li> <li>・地域情報発信を強化します。</li> <li>・横浜銀行との連携を強化します。</li> </ul>																	



(4) 地域や他機関等との連携・協働について (様式 12)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																																																																	
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																																																																	
ア	地域との連携・協働について	A	B	C	A	B	C																																																															
	地域との連携・協働が図られている																																																																					
イ	学校、青少年関係団体や企業等との連携・協働について	A	B	C	A	B	C																																																															
	学校、青少年関係団体や企業等との連携が図られている																																																																					
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																																																		
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 地域との連携・協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域行政（地元自治会等）との連携・協働</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>28</td> <td>8,178</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>28</td> <td>10,404</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政（横浜市、磯子区、市施設、県、その他）</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>16</td> <td>3,863</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>18</td> <td>6,573</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティア会活動</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016年度</th> <th>2017年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>会員数</td> <td>83</td> <td>72</td> </tr> </tbody> </table> <p>活動実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>延べ日数</th> <th>延べ人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>21</td> <td>352</td> <td>2,660</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>21</td> <td>351</td> <td>2,747</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 学校、青少年関係団体や企業との連携・協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校連携</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>54</td> <td>2,446</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>66</td> <td>3,746</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年関係団体との連携</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>2</td> <td>210</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>9</td> <td>17,732</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>ネーミングライツスポンサーとの連携</li> </ul> <p>はまぎん キッズ・サイエンス</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>6</td> <td>1,446</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>6</td> <td>1,762</td> </tr> </tbody> </table>				年度	件数	参加人数	2016	28	8,178	2017	28	10,404	年度	件数	参加人数	2016	16	3,863	2017	18	6,573		2016年度	2017年度	会員数	83	72	年度	件数	延べ日数	延べ人数	2016	21	352	2,660	2017	21	351	2,747	年度	件数	参加人数	2016	54	2,446	2017	66	3,746	年度	件数	参加人数	2016	2	210	2017	9	17,732	年度	回数	参加人数	2016	6	1,446	2017	6	1,762	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元行事に積極的に参加し、地域と連携して洋光台サイエンスクラブなどを運営しています。また、横浜市小学校理科研究会と連携した事業も行っています。</li> <li>洋光台まちづくり協議会との共同事業による洋光台サイエンスクラブは、着実に会員数を伸ばしているほか、地元自治会や行政とも連携が図られ、またボランティア会が経験・知識を活かした教室を科学館内で行っているなど、地域の多様な連携先との関係が構築されています。</li> <li>学校、青少年関係団体や企業との連携においては、市内の学校への出前教室、青少年団体や企業との連携によるイベントや教室が開催されていますが、横浜市内にある動物園、水族館、美術館などもより一層の連携を強めていくことが期待されます。</li> <li>地域団体や市民との連携は強化されてきていますが、他の科学館と比べると企業や大学・研究機関との幅広い連携が薄いように思いますので、今後期待してB評価とします。</li> </ul>			
年度	件数	参加人数																																																																				
2016	28	8,178																																																																				
2017	28	10,404																																																																				
年度	件数	参加人数																																																																				
2016	16	3,863																																																																				
2017	18	6,573																																																																				
	2016年度	2017年度																																																																				
会員数	83	72																																																																				
年度	件数	延べ日数	延べ人数																																																																			
2016	21	352	2,660																																																																			
2017	21	351	2,747																																																																			
年度	件数	参加人数																																																																				
2016	54	2,446																																																																				
2017	66	3,746																																																																				
年度	件数	参加人数																																																																				
2016	2	210																																																																				
2017	9	17,732																																																																				
年度	回数	参加人数																																																																				
2016	6	1,446																																																																				
2017	6	1,762																																																																				

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>ア. 地域との連携・協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域との積極的な交流を促進し、連携事業の回数、参加人数の増を目指します。</li> </ul> <p>イ. 学校、青少年関係団体や企業との連携・協働について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特に教育委員会との連携を強化し、回数、参加人数の増を目指します。</li> </ul> <p>学校 出前教室にプログラミン教室をいち早く加え連携を強化します。</p>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・動物園「ズーラシア」とは連携が開始されていますが、相互の強みを発揮した取組に深化させ、独自性あるイベントや教室開催に結び付けていくことが望まれます。</li> <li>・ボランティアで地元の人（遠方からでも通いたい人たちも含めて）を「見つけ、つなぎ、集まる」工夫が必要です。核となる人たちが集まり、口コミで広がっていくことが理想ですが、うまく広報することも重要です。多様な経歴を持つボランティアがプログラミングチームをつくったように、「〇〇チーム」の多様な展開を期待します。</li> <li>・青少年関係団体との連携での大幅な参加人数増は、静岡科学館で開催されたサイエンスピクニック 2018の参加人数計上によるとのことでしたが、地域や学校との連携もさることながら、まだまだ青少年関係団体や企業との連携を推進する必要があるのではないのでしょうか。連携の形としては、事業連携、中間支援、マッチングなど様々考えられるので、そうした広がりある連携・協働がこれからもっと必要だと思います。</li> <li>・今後は、科学や宇宙に関する教育に関して、地域の学校に対し中間支援機能を発揮していくことも期待されます。小学校に対しプログラミング教室を出前講座で実施するだけでなく、教える立場となる教師達に対し、プログラミングの教え方のノウハウを伝授するなど、直接的支援に加え、間接的支援も行っていくことを検討してください。</li> </ul>
--	--

## 4. 管理運営

### (1) 運営体制に関する基本的な考え方について (様式 13)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																							
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																							
ア	効率的かつ安定的な運営体制の確立及び人材育成について	A	B	C	A	B	C																					
	効率的かつ安定的な運営を維持する体制を確立し、職員の育成、資質向上に取り組んでいる																											
イ	危機管理への対応及び個人情報保護に対する取組みについて	A	B	C	A	B	C																					
	安全管理、危機管理への対応、事故防止に向けた対策を講じるとともに、個人情報保護に取り組んでいる																											
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																								
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 効率的かつ安定的な運営体制の確立及び人材育成について</p> <p>運営体制要員数 (提案要員数 51 名)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016 年度</th> <th>2017 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>常勤</td> <td>35</td> <td>39</td> </tr> <tr> <td>非常勤</td> <td>12</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>47</td> <td>51</td> </tr> </tbody> </table> <p>*短期非常勤を除く</p> <p>外部研修参加回数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>件数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>22</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>29</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table> <p>職員研修</p> <p>スタッフキャリアアップ</p> <p>イ. 危機管理及び個人情報保護の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安心・安全を最優先にした運営 監視モニターの設置 4ヶ所 監視個所 26ヶ所 館内非常口誘導サインを更新</li> <li>日常の安全管理</li> <li>職員の防火訓練、研修 年 2 回実施しました。</li> <li>個人情報保護に対する取組 個人情報保護に関する試験を年 1 回実施しました。</li> </ul>					2016 年度	2017 年度	常勤	35	39	非常勤	12	12	計	47	51	年度	件数	参加人数	2016	22	25	2017	29	35	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの 2 年度間は、人材定着の過渡期で、離職者の発生により運営体制が不安定になった時期が見られます。現在は、新卒採用などにより常勤職員の増加が図られていますが、これら貴重な人材の定着化を図ることが望まれます。</li> <li>危機管理への対応、個人情報保護への取組については、マニュアルの整備や研修・訓練等により、スタッフへの周知が図られています。</li> <li>職員のモチベーションが低下しないよう、働きがいのある労働環境の整備が課題です。徐々に待遇改善が進んでいる点は評価します。</li> </ul>			
	2016 年度	2017 年度																										
常勤	35	39																										
非常勤	12	12																										
計	47	51																										
年度	件数	参加人数																										
2016	22	25																										
2017	29	35																										

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材育成のための投資を行います。</li> <li>・外部研修等の積極的な参加を推進します。</li> <li>・個人情報保護の取組を強化します。</li> <li>・非難訓練の内容の充実を図ります。</li> <li>・AEDの講習会を開催します。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時代を先取りするイベントや展示、企画展等を常にバージョンアップしていくためには、理系修士卒や科学館等の経験者などの専門職の定着を図る必要が高く、待遇改善、定期昇給、ステップアップなどにより、意欲をもって従事できる人材の発掘、育成が重要となります。類似の科学館等のコミュニケーターやインタープリターが働きたくなるよう、人材育成、定着を意識した運営体制づくりが大きなポイントです。</li> <li>・サイエンスコミュニケーターのスキル向上に向け、外部アドバイザーなどにも力を借りて研修などを実施していくことが望まれます。</li> <li>・人（職員）を育てることによって、人（職員）が人（親子）を育てることは言うまでもありません。5年を区切りとした条件では、やる気のある職員を集め、育てていくことが経営課題であることは周知のことです。その課題を乗り越え、人材育成のための仕組みをつくり、組織的に職員を育てようと努力しているところは素晴らしいです。</li> <li>・提案書に沿った要員数を確保していると思われるので、職員研修を徹底してください。的川館長の継続雇用も是非実現し、科学館の質を落さないことが大切です。</li> <li>・日本各地で想定外の規模の自然災害が発生しており、首都直下地震も高い確率で起こることが予想されていることなどから、地下を含め複数フロアを有する施設として、より一層の安全対策を心がけてください。</li> </ul>
--	--

(2) 収支計画について (様式 14)

評価項目・評価基準		指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄											
		評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)											
ア	収支計画と無駄な支出の抑制策について	A	B	C	A	B	C									
	無駄な支出の抑制に努め、計画通りに収支が推移している															
イ	財務経営状況について	A	B	C	A	B	C									
	施設を継続的、安定的に運営するための財政的基盤が整っている															
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄												
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 収支計画と無駄な支出の抑制策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収支計画</li> <li>収入</li> <li>2016年度 ▲323,262 円の予算未達</li> <li>2017年度 予算達成</li> <li>支出</li> <li>2016年度</li> <li>人件費 常勤職員定員4名の減</li> <li>維持管理費 設備改修(LED化等)による増</li> <li>運営費 駐車場賃借料の減</li> <li>事業経費 教室・企画事業費、展示費の増</li> <li>宇宙劇場費の減</li> <li>2017年</li> <li>人件費 非常勤人件費の増</li> <li>維持管理費 設備改修(LED化等)による増</li> <li>運営費 駐車場賃借料、一般管理費の減</li> <li>事業経費 教室・企画事業費、展示費の増</li> <li>目的外事業費の増</li> </ul> <p>イ. 財務経営状況</p> <p>【2016年度決算】 単位：百万円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>売上</th> <th>経常利益</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コングレ</td> <td>16,042</td> <td>1,453</td> </tr> <tr> <td>NTT ファシリティーズ</td> <td>257,430</td> <td>20,581</td> </tr> </tbody> </table> <p>2 社共施設を安定的に運営するための財政的基盤は、十分に整っています。</p>					売上	経常利益	コングレ	16,042	1,453	NTT ファシリティーズ	257,430	20,581	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入については、平成28年度は教室・企画事業収入が予算を下回ったことなどから、実績が予算を下回ったものの、29年度は、教室・企画事業、目的外事業が予算を大幅に上回り、収入合計でも実績が予算を大きく上回る結果となりました。一方、支出においては、実績が予算と大幅に異なっている項目が多く見られ、29年度においては、一般管理費(本社経費等)を大幅に削減することによって、赤字が回避されています。</li> <li>・照明のLED化など無駄な支出の抑制により、29年度は収支を改善しました。</li> <li>・設備投資をすることによって、中期的には無駄な支出を抑える方策を計画的に行っている点を評価します。</li> <li>・指定管理者の共同体を構成する株式会社コングレ、株式会社NTTファシリティーズの財務基盤は安定していると考えられます。</li> </ul>			
	売上	経常利益														
コングレ	16,042	1,453														
NTT ファシリティーズ	257,430	20,581														

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収入 開催教室数（プログラミング教室等）を増やします。</li> <li>時代を先取りしたイベントを開催します。</li> <li>・支出 地道に水光熱費を削減します。 長期的なコストの見直しを行います。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般管理費の削減等の調整を行わずとも、予算に沿った事業の執行により、年度毎の黒字が確保できるよう努めていくことが望まれます。そのためには、運営体制の確立による人件費の安定化や、修繕や設備管理に関し横浜市との調整により計画的実行を図っていくことなどが考えられます。</li> <li>・この間、照明の LED 化、空調機入替、トイレ改修、券売機増設等の施設改善の投資を実施してきましたが、今後は、光熱水費等の経常経費の軽減、自主財源の拡大等を図り、優秀な人材確保や昇給アップ等に必要となる人件費増、各種教室等の企画や展示模様替え等の費用増を図るなど、メリハリを利かせた財政運営を進める必要があります。</li> <li>・収支計画は緻密な計算の上に成り立つものであるため、1円でも間違いのない予算計画と決算報告を望みます。</li> </ul>
---	---

(3) 施設の維持管理について (様式 15)

評価項目・評価基準				指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																														
				評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																														
<p>施設の維持管理について</p> <hr/> <p>施設の保守管理、維持管理に取り組むとともに、地球温暖化対策等、環境へ配慮した取り組みを行っている</p>				A	B	C	A	B	C																												
指定管理者記入欄				選定評価委員会記入欄																																	
<p>【評価の根拠】</p> <p>ア. 蛍光灯等の LED 化 LED への交換 単位：本</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>総本数</th> <th>LED</th> <th>LED 化率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>蛍光灯総本数</td> <td>1,185</td> <td>775</td> <td>65,4%</td> </tr> <tr> <td>常時点灯蛍光灯</td> <td>771</td> <td>733</td> <td>95,1%</td> </tr> <tr> <td>水銀灯</td> <td>46</td> <td>39</td> <td>84,8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>電力使用量 単位：kwh</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>使用量</th> <th>削減量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2015</td> <td>597,284</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>2016</td> <td>531,441</td> <td>-65,843</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>516,580</td> <td>-14,861</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ. 清掃</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き抜け部の埃落としを実施しました。</li> <li>・各フロアの壁清掃及びエレベータ前通路天井の埃落としを実施しました。</li> </ul> <p>ウ. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部非常階段に避難ルートを表示しました。</li> </ul>					総本数	LED	LED 化率	蛍光灯総本数	1,185	775	65,4%	常時点灯蛍光灯	771	733	95,1%	水銀灯	46	39	84,8%	年度	使用量	削減量	2015	597,284	-	2016	531,441	-65,843	2017	516,580	-14,861	<p>【現状の評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明の LED 化により大幅な電力使用量の削減が図られているほか、特別修繕による 1 階エントランス前の環境整備や、館内の特別清掃による吹き抜け部の埃落とし、トイレの改修など、快適な館内の環境整備が心がけられています。</li> <li>・日常の保守管理業務や、環境へ配慮した取り組みが着実に進められています。</li> <li>・5 年契約の中での施設改修はプライオリティが低くなりがちですが、トイレ改修が進んだことは評価できます。また、同じく照明を LED 化して予備暖房も使わず、節電もせずに済み、全館が明るくなったことも評価できます。</li> </ul>					
	総本数	LED	LED 化率																																		
蛍光灯総本数	1,185	775	65,4%																																		
常時点灯蛍光灯	771	733	95,1%																																		
水銀灯	46	39	84,8%																																		
年度	使用量	削減量																																			
2015	597,284	-																																			
2016	531,441	-65,843																																			
2017	516,580	-14,861																																			

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <p>ア. 消火器の交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・型式失効により 38 本を加圧式消火器に交換します。</li> </ul> <p>イ. 地球温暖化防止への貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備の効率的運用をして省エネルギーに務めます。</li> </ul> <p>ウ. 予防保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令に基づく各種点検結果による修繕を実施します。</li> <li>・設置後長年を経過している設備及び不具合がある設備等の継続的な提案を行います。</li> <li>・巡回点検時に各設備の不具合を早期に発見して修繕等の対応をします。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けた提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・照明の LED 化による電力使用量の削減、外部非常階段への避難ルートの表示・消火器の交換による安全対策の充実などが成果を上げつつありますが、これからは、一律的でない節電、効率的な運用による省エネの実現を図るなど、メリハリの利いた設備の維持管理や運用を体系的に進める必要があります。</li> <li>・日常の点検に加え、近年の自然災害の規模の大きさを勘案し、大規模な地震や台風等の風雨災害の際に危険な箇所はないか、再確認することが望まれます。</li> <li>・施設の長寿命化のための修繕等については、指定管理者が行えることは積極的に取り組み、投資していると思います。引続き横浜市との話し合いの中で、収支予算が圧迫されることのないよう、計画的に実施していくことが必要と考えられます。</li> <li>・今後は、横浜市が施設の改修やリニューアル予算をどう確保していくかを検討する必要がありますが、具体的に動いていないことは課題と言えます。設置者として、早急に施設の長寿命化計画を策定すべきです。</li> <li>・現状に満足せず、施設維持管理についてたゆまぬ努力を積み重ねてください。</li> </ul>
--	---



(4) モニタリングの実施について (様式 16)

評価項目・評価基準			指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																				
			評価 (A・B・C)			評価 (A・B・C)																				
<b>モニタリングの実施について</b> 事業評価及びPDCA マネジメント等により、事業改善につなげている			A	B	C	A	B	C																		
指定管理者記入欄			選定評価委員会記入欄																							
<b>【評価の根拠】</b> ア. モニタリングの実施 ・モニタリング件数			<b>【現状の評価】</b> ・利用者・来館者のニーズや意見収集を図るため、アンケート調査を実施するとともに、各種モニタリング指標を統計・分析し、次年度の事業計画に反映させるセルフモニタリングが実施されています。 ・アンケートや利用者の声を反映して改善を行っており、トイレの改修やカフェのリニューアルなどの実施に結び付いています。 ・教育関係者から複数回に渡り意見を聞くとともに、大学などの研究機関の研究者、プロのサイエンスコミュニケーターなどとの意見交換や研修会が予定されています。																							
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>2016 年度</th> <th>2017 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>科学工作教室</td> <td>411</td> <td>420</td> </tr> <tr> <td>PC 教室</td> <td>168</td> <td>360</td> </tr> <tr> <td>洋光台サイエンスクラブ</td> <td>185</td> <td>262</td> </tr> <tr> <td>星空観察会</td> <td>26</td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>790</td> <td>1,069</td> </tr> </tbody> </table>				2016 年度	2017 年度	科学工作教室	411	420	PC 教室	168	360	洋光台サイエンスクラブ	185	262	星空観察会	26	27	計	790	1,069						
	2016 年度	2017 年度																								
科学工作教室	411	420																								
PC 教室	168	360																								
洋光台サイエンスクラブ	185	262																								
星空観察会	26	27																								
計	790	1,069																								
・年次アンケート			<table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>日数</th> <th>回答者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2016</td> <td>2</td> <td>740</td> </tr> <tr> <td>2017</td> <td>2</td> <td>804</td> </tr> </tbody> </table>						年度	日数	回答者数	2016	2	740	2017	2	804									
年度	日数	回答者数																								
2016	2	740																								
2017	2	804																								
・外部アドバイザーからの意見 教育関係者			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2017 年</td> <td>5</td> <td>130</td> </tr> </tbody> </table>							回数	参加人数	2017 年	5	130												
	回数	参加人数																								
2017 年	5	130																								
・プログラミング教室用教材の選定 ・プラネタリウム学習投影番組 ・ミニ実験																										

<p><b>【今後予定している取組等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• PDCA サイクルを強化し運営管理に反映させます。</li> <li>• 教育関係者以外の外部アドバイザーとの意見交換会を行います。</li> </ul>	<p><b>【改善に向けての提案・意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アンケート調査の精度をより高めるため、サンプリングの方法や、実施日、回答における評価尺度などを見直してみることが望まれます。</li> <li>• 実施された改善策に対する検証も行うとよいと思います。やったら終わりではなく、スパイラルで発展させていくマネジメントサイクルとしてPDCA サイクルを導入してください。</li> <li>• PDCA サイクルの強化を図るにあたって、セルフモニタリングにとどまらず、外部から客観的な視点で館全体の運営について意見をもらう運営協議会といった検討の場の導入も考えられます。</li> <li>• 各種教室や星空観察会等の利用者アンケートはこれからも継続して実施するとともに、学校の先生やそれ以外の専門機関の外部アドバイザーとの意見交換を密に行うことで、教室運営、企画展の企画などに活かしていくのが重要です。意見をいただきたいアドバイザーの候補もリストアップできており、それらのアドバイスを適切な時期に受ける機会を意識的に創出するのが重要です。</li> <li>• 経営感覚を大切にすることは重要ですが、資料（エビデンス）としての職員や利用客の「声」を確実に集める方法を工夫してください。そのためには、目標をすべての人に周知し、だれでも投函できる「目標に沿った意見箱」、「目標に沿った相談窓口」、「目標に関わりなく科学館に期待すること」などをきちんと把握していく必要があります。</li> <li>• 職員が「働きやすい科学館」「やりがいのある科学館」になっているのか、親子が「また来たい科学館」になっているのか、学びたい青少年が「何度も来たい科学館」になっているのか、についてモニタリングしてください。</li> </ul>
--	--